

# 上昇過程でもみ合いは必須か？ ～日経平均株価の動き

Raku  
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am  
fund academy

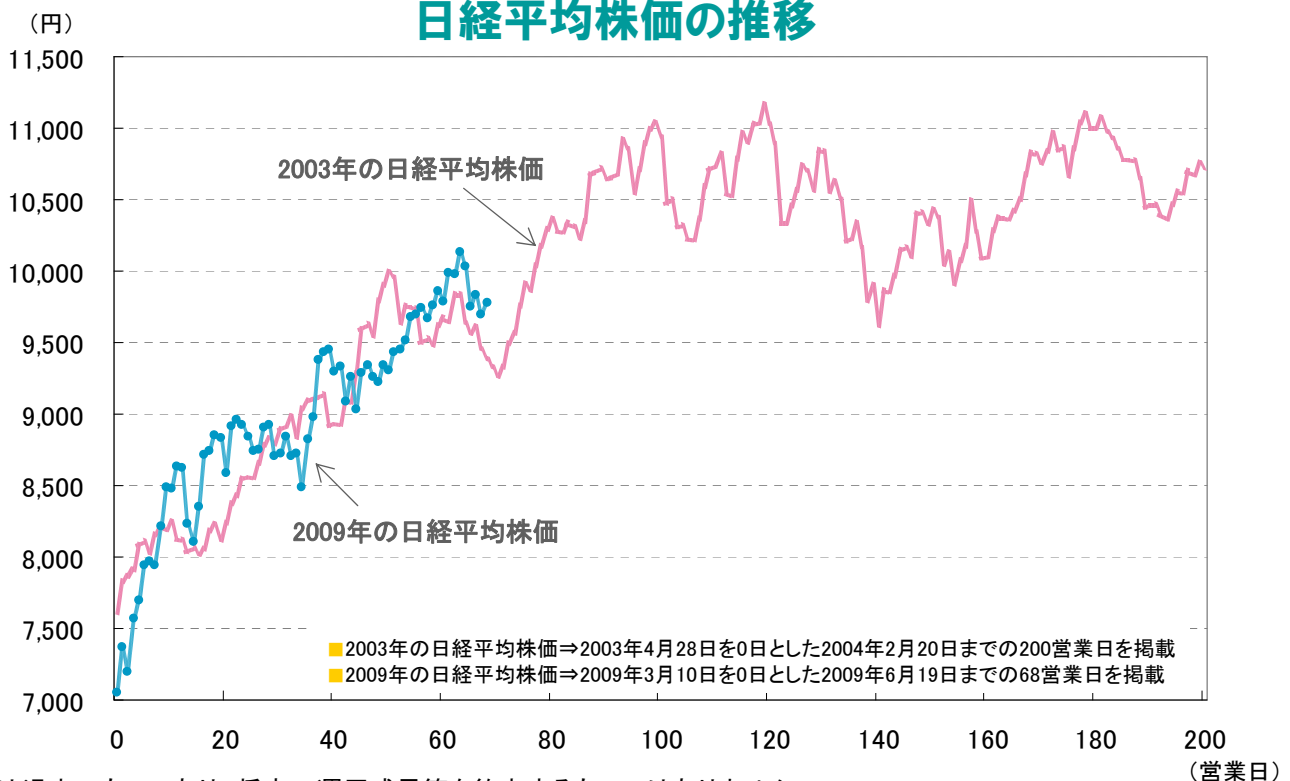
日経平均株価は6月12日に終値で1万円台を回復し、今年3月の安値7,054.98円(終値)から40%を超える上昇となりました。ただ、上昇ピッチが速かったことや1万円を回復したという達成感から利益確定の売りが出やすい状況になっているとみられ、足元では、1万円手前の水準でもみ合う展開となっています。

過去において、現在の日経平均株価の動きのように大きく下落した後、およそ3ヵ月程度で7,000円台から1万円近辺まで上昇する歩みとなったのが2003年の日経平均株価の動きでした。

2003年の日経平均株価の動きは、4月の安値7,607.88円(終値)から7月の9,955.62円(終値)まで上昇した後、およそ1ヵ月かけて700円近く調整し、再び上昇に転じる動きとなりました。それらを参考にするのであれば、現在の日経平均株価は、しばらくの間、次への上昇エネルギーを貯めるような調整が必要な局面なのかもしれません。

もちろん、2003年と2009年では、株式市場を取り巻く環境などが異なるため、2009年の日経平均株価の動きが2003年と必ずしも同じような動きになるわけではないと思われます。しかし、大幅下落後の反発の動きとしては参考になる部分があるのではないのでしょうか。

## 2003年と2009年の底入れ時からの 日経平均株価の推移



※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。